市民と野党をつなぐ会＠東京

東京衆議院 25 小選挙区　市民と野党が大集合！　議事録

●開催日時／2017 年 3 月 13 日（月）　17:00～19:10
●会場／第一会場：衆議院第一議員会館 大会議室
　　第二会場：参議院議員会館 講堂　（中継映像を視聴）
◆出席者
総勢 420 名（議員･候補者等政党関係者、報道関係者、スタッフを含む）

司会を共同代表・松井奈穂さん（選挙で変える！渋谷･中野連合）が務め、集会をすすめた。

【第一部】

１．主催者挨拶
松井 奈穂さん（市民と野党をつなぐ会＠東京 共同代表）
　みなさん、こんにちは。今日は「東京衆議院 25 小選挙区、市民と野党が大集合！」にたくさんお集まりいただきまして、ありがとうございます。私は市民と野党をつなぐ会＠東京の共同代表の松井奈穂です。今日は司会をやらせていただきます。よろしくお願い致します。（拍手）
　さて、もうこれ以上安倍政権の暴走を許すわけにはいかない、と考える市民が安保法案強行採決の頃から、「野党は共闘！」と訴えるようになってきました。先の参議院選挙でも、全国の一人区で 32 カ所の野党共闘が実現し、11 カ所で勝利することができました。知事選、補欠選挙などでも野党統一候補が生まれ、そしていくつかでは勝利を勝ち取ってきています。ここ東京でも、次期衆議院選では野党共闘をして、なんとしてでも勝ちたいと考える市民が立ち上がり、つなぐ会ができました。同じ選挙区の仲間と出会い、それぞれの地区で、地域で市民と野党が連携して、統一候補を、擁立を実現していく、それがこのつなぐ会の役割です。ここ数ヶ月で、いくつかの選挙区では市民も政党も細かい違いや思いを乗り越え、憲法無視の現在の政治に勝利することをめざそうという動きができてきました。すでに東京 25 の選挙区のうち、16 の選挙区で市民の地域組織が新しく結成されています。これは大きな変化です。こんなことは、いまだかつてなかったことです。この市民と野党の結びつきが今後の政治を変えていく力になると、私は信じています。統一候補が擁立された後は、私たち市民と共闘したすべての野党が、自分たちの候補者ととらえみんなで選挙を作り上げていきたい、そして全国の市民とも励ましあいながら、結果に結び付けていきたいと、思っています。きょうは、みなさん、いっしょにそのことを確認しましょう。よろしくお願いいたします。（拍手）

２．各党代表者挨拶
長妻昭さん（衆議院議員、民進党東京都連会長代行）
　みなさま、こんばんは。私、衆議院議員の民進党 長妻昭でございます。ほんとに、熱気あふれる多くのみなさまにお集まりをいただきまして、心より感謝を申し上げる

ところでございます。お見受けすると、年金受給者の方も結構多いんじゃないかな（笑）と、まぁ、こういう方々を前にすると、私も元気がでます。ぜひ、みなさんのパワーでほんとに日本の政治を変えていただきたい、と。

まずもって御礼を申し上げたいのが、昨年の参議院選挙で、特に一人区でですね、野党がバッティングしない形で候補者を出すことができて、相当、その部分はいい成績で、みなさまのお世話になった、ということを、まずもって御礼を申し上げるところでございます。

そしてみなさん…（拍手）ありがとうございます。そしてみなさん、今の政治で本当にいいんでしょうか？　ますます日々、「危ないなぁ、大丈夫かなぁ、ほんとに日本はこれからどうなるんだろう？」こういう危機感を持って今日も予算委員会がございました。世界がですね、大きく変わろうとしています、悪い方に。相当この「人権意識、多様な価値を認める」、これから逆行するような政権がですね、アメリカで生まれ、そして他の国でもですね、どんどんそういう傾向が強くなっております。トランプ大統領、私との共通点は、誕生日が同じと、（笑）いうことでございまして、それ以外共通点は一切ございませんので、（笑）ご安心をいただければ、と思います。やっぱり偏狭な政治、そして人権を制約するような動きにはですね、やはり日本もきちっと声をあげなきゃいけない、しかし、この流れは格差の拡大とともに、世界の中大きな、私は潮流となってくるんじゃないか、と。そのなかで日本も同じ流れに乗ってはいけません。日本独自の価値というものがあるじゃないですか。かつて、苛烈な戦争を、悲惨な戦争を経験して、今立派な日本国憲法をいただくわが日本が、きちっと発信しなければならない価値、これがあるんじゃないでしょうか。（拍手）そして翻って日本を見ますとですね、日本も格差が拡大をする、こういう状況になっております。この世に生まれたからには、生かされている一度だけの人生、どなたでも自分の力を発揮したい、あるいはこの世で役割を果たしていきたい、こういうふうに思う気持ちはですね、どなたでもあると思います。しかし、その力の発揮を阻む壁が、日本社会では厚く高くなっている。こんなもったいないことがあるのか。格差の壁が厚くなって、若者や働く人たちや、そしてお子さんたちや、がんばっている人たちを押しつぶしていく。こういう社会で本当にいいんだろうか？過労死の問題もあります、非正規雇用の問題もあります、男女の格差の問題もあります。子供の教育格差も激しくなっております。ヨーロッパに比べて、われわれ馬車馬のように働いて、果たして生活の質がですね、上がっているのか？　ほぼ毎日家族と食事をするヨーロッパの国々と比べて、なぁんでわれわれこれほど働いているのに、生活の質が、改善しないのか？　暮らしやすい世の中にならないんだろうか？　何かがおかしい。このですね、今の、一部に片寄った予算配分を含めて、今の政治をですね、大きくこれ変えて、多様性を認めてですね、そして、寛容な精神を持った政治、慈悲の心のある政治、これを取り戻さなければならない、というふうにわれわれは、強く考えているところでございます。

昨日、われわれ民進党党大会がございました。その中で、「原発ゼロ基本法案」を国会に提出する、ということも決めました。（拍手）ここでですね、われわれも責任政党として、詳細に具体的にその工程表を決めて、そして法律に落として、「原発ゼロ」これを実現するために責任あるですね、政策を打ち出していくと、いうことでこれからも取り組んで参ります。国会では、森友学園の問題、天下りの問題。コネがあれば国有地が安く買える、コネがあれば天下り。月に二回の出社で年収ン千万もらえる、バラ色の老後が待ってる。なんでコネがある人たちやグループだけが優遇されるんだろう？　この分配のしかたが日本は歪んでるんじゃないのか？だからみんな一生懸命働いても、ヨーロ

ッパよりも一生懸命長時間で働いても、生活の質が上がらない。こういうところに、原因があるんじゃないのか、とわれわれは強く考え、やはり大きなもう一つの政治勢力が、今の与党を、政権を脅かすような力を持って、そして政権が交代するかもしれない、こういう状況を生み出さない限り、日本の政治は改善しない。この大きな責任はわれわれ野党にある。もう少し、数を増やさなければならない、というふうに強く思うわけでございます。（拍手）ぜひみなさん、ここで、皆さまのお力で政治を大きく良い方に変える、原動力としてですね、これからもご指導を、ご指導、本当によろしくお願いしたい、ということを申し上げまして、私のご挨拶と致します。ともにがんばって参りましょう。ありがとうございました。（拍手）

小池晃さん（参議院議員、日本共産党書記局長）

みなさん、こんばんは。日本共産党の小池晃でございます。

安倍政権、今まで「暴走」と私言ってきたんですが、「暴走」に加えて「迷走」と、ヨロヨロと、そういう状況になってきたんじゃないでしょうか。森友学園の、あの問題で私、予算委員会で追及しましたけれど、一番許せないと思っているのは、私が、国有地の格安払い下げ問題を追究しているときに、安倍首相も、麻生財務大臣も、笑って聞いてたんですね。麻生さんの、私物の土地じゃないんですよ。国有地ですよ。みなさんの、汗と涙の、結晶じゃないですか。それを特定の学校法人に、超格安86%割引で、許せない話であります。社会保障を切り捨て、増税で苦しめている政府が、一方でこんなことをやっている。しかもその学校でやっている中身は何か？　教育勅語を幼稚園児に暗唱させる。ある年配の方から言われました。「戦前だって、小学校ではやったけれど幼稚園ではやらなかった。」（笑）そうだと思います。「一旦緩急アレハ」と、あそこが核心ですよ。天皇のために、いざことあれば命を落とせ…。これでどれだけの若者が戦場で命を落としたのか！まさに安倍首相の、目指している、その国が、あの森友学園で行われている中に示されているんじゃないでしょうか。こんな日本に絶対してはいけない。そのために安倍政権を打倒する時だと思います。（拍手）野党は共闘。

昨日の民進党の党大会で、野田幹事長が、「政策の一致点を最大限に、確認することを前提に、市民との絆を軸にして、野党連携の強化を加速する。」と、おっしゃった。私ども、これ歓迎します。まずは、野党の共通政策、旗印を明確にしなきゃいけないと思います。野党が力を合わせて、「こういう日本をつくるんだ」ということを、イメージ豊かに示していく、共通政策作り。必ずこれを、加速させ、実らせてさせていきたいと思います。（拍手）そして、選挙は、相互支援、相互推薦、これが必要だと思います。必ずしも「推薦」という手続きまで行かなくても、やっぱり力を合わせて勝利するということがなければ、これは自公に打ち勝つことはできません。（拍手）必ずこのことをですね、合意を実現していきたい。

それからもう一つ。先ほど長妻さんから参議院では一人区では大きな成果があった、と。たしかにそうです。参議院では私ども、候補者をほとんどおろしました。香川県だけで、共産党候補を統一候補としていただいた。しかしみなさん率直に申し上げて、前にも申し上げましたが、総選挙ではそういうわけにはいかないです。比例代表という、この選挙がありますから、小選挙区で候補者をおろ

してしまったら、これは、選挙になりません。ですから私ども一方的におろすということは考えていない、ということは申し上げてまいりました。これはきちんと話し合って、これは、「民進党の候補を統一候補にする。」ところもあれば、「日本共産党の候補者を統一候補にする。」そういうところがなければ、お互いに力を発揮できませんし、選挙の結果、勝たなきゃいけないんです、議席を伸ばさなきゃいけないんです。比例代表も含めて、野党の議席を伸ばして、そうして安倍政権を打倒するのが目的です。そのためにぜひ、みなさんの地元地元で、声を上げていただきたい。各政党の本部に、攻めあげていただいて、「そういう合意を作れ！」という声をですね、私どもを後押ししていただきたい。みなさんの世論と運動が、野党共闘を実現していく確かな力になります。そして私どもは、政権の合意も、ぜひ作っていきたいと思っております。やっぱり総選挙ですから、これは勝ったらば政権とるわけですから、ならばどういう政権にするのか？　最初から私たちはそれ前提としません。それ言い出すと、まとまるものもまとまらなくなる。（笑）ですから、最初からそれ問題にしませんが、やっぱり議論の中で、「野党が政府作ったらこぉんなことやるんだ」ということをですね、合意をしていくことが、私は、選挙に勝つためにもどうしても必要なことではないかなぁ、というふうに思っています。いずれにしても、安倍政権を、倒すためには、安倍さんの台詞じゃないけど、「この道しかない！」んです。（笑）市民と野党の共闘で、必ず勝利をして、新しい政治を作りましょう。ともにがんばりましょう。ありがとうございました。（拍手）

＊ここで司会者から、自由党の山本太郎さんは現在国会予算委員会に出席しており、区切りがついたら来場して話をするとのこと、また社民党に声をかけたが、福島瑞穂さんが国会で安倍政権を追及中であり、今回は参加できない、との報告があった

糸数慶子さん（参議院議員、沖縄の風）

　みなさま、こんにちは。元祖野党共闘の糸数慶子です。（笑、拍手）大変僭越ではございますが、沖縄はご存知の通り、やはり、安倍政権の強権的な政治に打ち勝つには、なんとしても野党がまとまって闘っていかなければとても勝利することができないということを、いち早く察知して、実はご存知だと思います、2014 年の名護市長選挙、そして名護市の、あの市会議員選挙、さらには、同じ年にありました知事選挙、そして今、いよいよ解散総選挙が起ころうとしておりますけれども、この前の衆議院解散総選挙では、沖縄は４区までございますが、１区から４区まですべて野党が勝利をいたしました。（拍手）これは、沖縄ではご存知の通り、県民の８割が反対をしております辺野古の新基地建設。そして、県民の、もぅすべて、と言ってもいいかと思います、41 市町村、そして県議会、市町村の議長会、議員、すべてがオスプレイの配備反対と、そのように言って、普天間の基地閉鎖返還と、この建白書を携えて、安倍さんに渡したんですけれども、中身は一顧だにされていない、というその結果が、やはり県民をこのように団結をさせて、私たちのこのような闘いが、今のところ、大変うまくいっている、そんな感じです。ですけれど、「あと 30 秒です」と言われておりまして、あの２枚ほど原稿を準備しておりますけれども、思いはもぅあの一杯なんですが、やはり限られた時間でございますので終わりますが、私が今みなさんに強

く強く申し上げたいのは、高江や辺野古で民意に基づいて私たちは、ある意味、非暴力なんですね、抵抗はしておりますけれども、非暴力でちゃあんと民主的に則った闘いをしておりますけれども、あの山城博治さんの不当な逮捕から100日以上経過しても、まだこういう闘いを続けなければいけない。基地が返還されても、返還された跡地には様々な環境問題は残っているという、そして爆音も問題も、ついこの間判決が出ましたけれども、やはり司法は安倍政権に追随しています。飛行の差し止めをせずに、本当に史上稀なる賠償金を認めたんですね、とんでもない、といふうに思います。まあそういう状況の中で、この東京25（選挙）区すべてのですね、野党共闘が、沖縄に見習って、ぜひとも闘いを勝利していこうではありませんか。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。（拍手）

＊司会の松井さんから「東京生活者ネットワークは、国政の政党ではないが、東京の市民運動、野党共闘においては大きな役割を持っておられるので、ご挨拶といただきます。」との話があり、ご挨拶をいただいた。

山内れい子さん（都議会議員、東京生活者ネットワーク）

みなさま、こんばんは。ただいまご紹介をいただきました、東京生活者ネットワーク、地域政党です、都議会議員の私は、山内れい子と申します。プログラムには小松久子と書いてございますが、私は山内れい子ですので覚えていただければと思います。（笑）

都議会、ほんとに今、注目を集めるようになりました。オリンピック･パラリンピックの総費用の問題、膨大なお金がかかっている、これをなんとも削減しなければならない。さらには豊洲市場の問題。これも本当に今までの古い体質の、お金があるから何でも使っていい、というそういった体質がございます。それを私たちはきちんと変えていこうと、東京に35の地域に53人の区議会議員、市議会議員、都議会議員がいる。元祖、地域政党です。そして、国会におきましては、この集団的自衛権、安保関連法、そして共謀罪の法案、こういったこと、70年間守ってきた平和が、危うい！　なんとしてもこれは止めなくちゃいけない。さらには、自民党の憲法改正草案、ご覧になった方、いっぱいいらっしゃると思いますが、その危機感、わたしたちはもっと身近に感じないといけないと思います。さらには原発の再稼働ですね。ほんとになんでこんなに市民とかけ離れた政治がまかり通ってしまうのか。安倍政権の暴走、さらにはさきほど迷走という言葉がありました。これを、止めるのはこの衆議院、結束していかなくちゃだめなんです、それが必要なんです。市民の方々の中には「政治には関心がないの」とおっしゃる方もいるかと思います。政治に関心がなかったとしても、政治は生活に介入してきています。それを危機感を持って、多くの方に広げていかなければならない、と思っています。ぜひとも、みなさんの力で野党共闘、進めていきたいと思います。いっしょに、がんばりましょう。ありがとうございました。（拍手）

３．衆議院予定候補者のお名前紹介

司会の松井さんが名前を呼び、下記の候補者が立ち上がり挨拶をした。

１区：日本共産党：冨田直樹さん、自由党：野沢哲夫さん

2区：民進党：松尾明弘さん、　日本共産党：細野真理さん
3区：*日本共産党：：香西克介さん　*後半の山本太郎氏の話の後に紹介された。
4区：民進党：井戸正枝さん、　日本共産党：青山昂平さん
5区：民進党：手塚仁雄さん、　日本共産党：宮本栄さん
6区：民進党：落合貴之さん、　日本共産党：岸武志さん
7区：民進党：長妻昭さん、　日本共産党：谷川智行さん
8区：民進党：吉田晴美さん、　日本共産党：長内史子さん
9区：民進党：木内孝胤さん、　日本共産党：原純子さん
10区：民進党：鈴木庸介さん、　日本共産党：岸良信さん
11区：民進党：前田順一郎さん、日本共産党：小堤東さん
12区：日本共産党：池内沙織さん
13区：民進党：北条智彦さん、　日本共産党：祖父江元希さん
14区：日本共産党：阿藤和之さん
15区：民進党：柿沢未途さん
16区：民進党：初鹿明博さん
17区：*民進党：伊藤正樹さん　*休憩時間直後に紹介された。
18区：民進党：菅直人さん、　日本共産党：橋本繁樹さん
19区：民進党：末松義規さん、　日本共産党：杉下茂雄さん、自由党：渡辺浩一郎さん、
20区：日本共産党：宮本徹さん
21区：日本共産党：佐藤文子さん
22区：日本共産党：阿部真さん
23区：民進党：櫛渕万里さん、　日本共産党：松村亮佑さん
24区：民進党：高橋斉久さん、　日本共産党：飯田美弥子さん
25区：民進党：山下容子さん、　日本共産党：井上宣さん

さらに、地方自治体の議員の紹介があった。（個々人の名前は呼びあげず。）

４．写真撮影
政党代表（４名）の写真、および出席者全員の集合写真を撮影した。

（休憩１０分）

【第二部】

５．主催者からの報告

鈴木国夫さん（市民と野党をつなぐ会＠東京共同代表）

共同代表をしています鈴木です。（拍手）市民と野党の共闘、ってどういうことか、ということを少しお話させていただいて、あと、後半の説明をさせていただきます。

今まで選挙というのはですね、まぁ投票所に行って、Ａさんに入れるかな、Ｂさんに入れるかな、ということ。「えぇ…、政策的にはＡさんがいいんだけどな、でも相手に勝つためにはＢさんかなぁ…」という選択、選択をする、という選挙だったんですね。ところがですね、去年の参議院選挙の一人区からガラリと変わりました。「つくる選挙」、統一候補をつくってですね、「こういう政策でやってくれよ」という市民が関わって「つくる」という選挙に変わったわけです。今までは、与えられたものの中から選んで、うまくいかなかったらブーブー言うという、（笑）そういう文化だったかなぁ、と思うんですけれども、そうではなくて、自分の責任でもって、候補者をですね、作り上げる、そういう選挙に変わったと思います。

衆参同日選挙が去年あるかもしれない、ということで、私ども目黒・世田谷で、共産党さん、民進党さん、社民党さん招いて会合を何回もやりました。そこでわかったことはですね、こうやって市民が関わって政治を作っていくんだな、と。今までは、ただ投票所に行ってポンと入れるだけ、というのではなくてですね、手間暇をかけて、民主主義というのは一緒に話し合いながら、変えていくもんだなぁ、ということがよくわかりました。で、候補者のみなさんも、今までそんな経験はないわけですよ。自分を支持してくれる人の後援会でお話をする。で、支持する人のところに行って、後援会に入る、というスタイルだったわけです。それが変わってですね、「あなたの党を支持しないけども、これやってくれよ。と、そういう対話になっていく。という選挙のスタイルに変わりました。で、それをですね、やるのは誰か？というと、市民です。それぞれの選挙区でやる、市民がやる、というスタイルです。あのぅ、私たち連絡会として各選挙区つないでいますけれども、単にわれわれは「つなぐ会」でございましてですね。ということで、つなぐ会というのを作っています。これは連絡会です。主体はあくまで、地域の一人ひとりが地域横断組織を作ってですね、そして話し合いながら、候補者、そして政策を作りあげていく、ということが基本です。決して私たちが中央組織でもって、司令塔だから、「おまえのところ、まだできていない、早く作れ。」という性格のものではなくてですね、それぞれの地域で立ち上げていく。で、実は今日の集会、何のためにやったか、というとですね、まだできていない所の人たちも含めて、あるいは日本全国の人がこの画面を見てですね、「よし、自分の地域でも自分たちで作ろう！」と、いうふうに勇気づけられる、と。そういうことのために、今回は開きました。

それから、後半の説明なんですけれども、各界の方からご挨拶をいただきます。私たち市民は一人ひとりではありますけれども、労働組合の方とかですね、あるいは大きなかたまりがあります。それから、宗教界の方、一見保守というふうに今までくくられていたかもしれないけれども、必ずしもそうではない、というところで、団体の方からもご挨拶をいただきたいと思います。

ということで、後半やりますのでよろしくお願い申し上げます。（拍手）

＊ここで、鈴木さんの話の途中で来場された山本太郎氏が挨拶をした。

山本太郎さん（参議院議員、自由党共同代表）

すいません、途中に入ってきて。そして、ご挨拶をさせていただいた後にまた出なきゃいけないんですね。今、予算委員会中で、「ナイフを研ぎに帰らなきゃいけない」（笑）という状況でして、すいません。えぇと、これ、あれですか、一人目ですか？　そんなことはないですよね？　もう何人か、ご挨拶なさいました？（笑）あぁ、良かったです、こんな若輩者が、最初に挨拶しろなんて許されることじゃありませんから。自由党の共同代表・山本太郎です、よろしくお願いします。（拍手）

いやぁ、ほんとに自分が今国会議員をやっているなんて、６年前の自分はまったく予想もつかなかった、っていうような状況なんですね。震災が起きて６年が過ぎた、原発事故から６年が経ち、そしてその収束の見込みもなく、方法もわからないっていうことですね。それと並行して、政治の場で行われてることは、あまりにもありえないようなことだらけだと、えぇ、ひとつはやはり国富といいますか、この国に生きる人々の共有財産の切り売り、というものがどんどん進められていっている、と。そればかりか、はたらく人々、もぅ、はっきり言って「コスト」として見なされるようなですね、雇用形態というものがどんどん進められていってしまっている。「残業時間が 60 時間」でもOK？最も忙しいときは、100 時間未満なら OK にしとくか、みたいな。いやそれ、死にますから、って話ですよね。といいますか、もぅ過労死、過労死ラインっていうものを大きく超えても、問題がないってことを決めちゃうって、これほんとにいい加減にしろって話なんですよね。

人間を人間とも思わないような政治をなんとか止めなきゃいけない、というところで、それを変える方法は、もぅ、選挙以外にないんだ、と。で、小選挙区制という部分に関しまして、「誰が作ったんだ！」とかという話もありますが、（笑）ありますが、一発逆転を生み出す、という意味では、この小選挙区制を使う以外にはないんだ、ということですね。まず、一夜にして一騎打ちにすればですね、一騎打ちというスタイルを作り上げれば、一夜にしてひっくり返すことができるのがこの小選挙区の利点であると。で、この部分について変えていく、変えていかないかは、次の選挙が終わってからにしましょう。まずここ集中して、一点突破で。とにかく野党が共闘しなければ、この最悪のケースである自民党安倍政権、だけではなく、まぁ、安倍さんが替わったところで、踊り子も替わるだけで流れている音楽は一緒ですから（笑）、ここをまず替えるしかない、というのは絶対な話ですよね。という意味でも次の選挙は一丸となっていくしかないっというのは、もぅこれは私たちが唯一持っているカードだと思うんですよね。これを大事に使っていかなきゃいけない、と。もちろん、自分的には「うぅーん、でもこの党のこの政策は…」っていうのは、あるのはあります、たしかに。そこをグッとこらえなきゃいけないっていうね、おとなになるためのステップをここ３年間、ここ永田町でふんでまいりました。（笑）（拍手）ほんとに。

私は原発事故から、世の中にやっと目が向いて、そして政治ということに関心をやっと持てた、無関心といわれる、その先頭を走っていたような人間なんですよ。でも、現状を知れば、誰もが、変わるし変われるし、そして変えていこうという力になっていく、と。政治家への訴え、政治家へのみなさんのロビイイング活動のですね、凄まじさというのはもぅ重々承知しております。「あっ、また、またいらっしゃいましたか」という、よくお顔をあわせる方、たくさんいらっしゃいます。みなさんも、その凄まじさそのエネルギーをですね、今興味のない方々に、どういうボールを投げれば政

治に興味を持ってもらえるか、という方にもですね、ぜひもうすでにやってる方々がほとんどでしょうけれども、ぜひそちらの方にも力を入れていただいて、これが一つになった時には確実に引きづりおろせる、と、政権交代も可能だと、そのためには、自公とはまったく違った、というか、とがったといいますか、有権者のみなさんに、「お、こりゃ、期待できるぞ！」というような政策をすりあわせ、というものも政治の場面でどんどん進めていきたいと、そのためにはもちろんみなさんの援護射撃も必要なんですけれども、よりわかりやすい政治の説明というものをこころがけてがんばっていきたいと思います。力をあわせてがんばりましょう、ありがとうございました！（拍手）ナイフ研いでまいります。失礼します。（拍手）

６．市民連合から連帯の挨拶

広渡清吾さん（市民連合、学者の会、東京大学名誉教授、元日本学術会議会長）

みなさんこんにちは、広渡でございます。

今日は、「市民と野党をつなぐ」というコンセプトの基で集会が開かれました。このコンセプトは、私が見るところ、戦後の日本社会の政治の歴史の中で画期的な意味を持っていると思います。どうしてこういうコンセプトが生まれたか？　それは、日本の社会の現状が、安倍政権の下で、まさに「日本国憲法どうするのか？」という分かれ道に立っているから、だと思います。つまり日本社会が今大きな危機にある、その危機に対応して、まったく新しい可能性を持った「市民と野党をつなぐ」というコンセプトが誕生しました。安倍政権が強行した安保法制、これは、みなさんご承知のように、平和主義・民主主義・立憲主義を擁護しなきゃならない、という大きな国民・市民の運動を作り出しました。この運動に野党も協力をして、野党と市民の大きな共同の闘いが、安保法案に反対する闘いの中で、展開をしました。残念ながら、安保法案の成立を阻止することはできませんでしたけれども、安保法制が成立して以降も、まさに私たち市民連合は、「安保法制を廃止し、立憲主義の回復を求める市民連合」という名称を作って、多くの市民団体を結集して、野党とこれから先どうするか、という協議を始めたわけです。つまり、一度闘った安保法案が、われわれの闘いはそこで、一敗地にまみれた、つまり闘いを勝利に導くことはできませんでしたけれども、その闘いをさらに継続して、安倍政権を打倒するまで、市民と野党の共同の闘いをつくろう、こういう動きを作り出し、それが全国に広がりました。そして、参議院選挙では、おそらく戦後の国政レベルの選挙では初めて、市民が野党に要求して、野党の統一候補をつくりだして参議院選挙、32 の一人区ですべて統一候補を押し立てることができたわけです。そしてこの 32 の選挙区のうち 11 区で、みごと勝利をしました。（拍手）しかしみなさん、参議院選挙では、市民と野党の力で勝利をしましたけれども、なお国会では、憲法改正の発議のできる 2/3 を政権与党が握っています。これをなんとかしなくてはならないというのが、今の状況だと思います。この事態を打ち破って、日本国憲法の下に、平和主義・民主主義・立憲主義を取り戻してさらにこれを発展させるためには、市民と野党、今「立憲野党」と言っています、野党にも変なのがいるので、立憲野党と言っているわけですけれども、この協同によって、安倍政権に替わる新しい政治を実現する以外に、道はありません。今日は何度もこのことが議員のみなさんからも強調されたところです。

さて、安倍首相は先日の自民党大会で、憲法改正をぜひ自分の任期中にやりたい、と言いました。彼は、どこを変えたい、と言いませんけれども、「憲法を変えたい」と言います。これは、安倍

首相だったお祖父さん岸信介さんが「自主憲法をつくる」、「占領下の日本国憲法はけしからん、『占領下につくられた』ということによってけしからん」ということで、自民党は自主憲法の制定を政党として掲げています。つまり、「日本国憲法を、根本から覆す」というのが、元々自民党のプログラムであった、ということです。この自民党総裁選で安倍さんは来年の9月、自民党総裁をもう一期やることができるようになりまして、意気揚々としていますけれども、しかしみなさん、国会の審議を見ていると、安倍政権の足元は大きく揺らいでいると思います。早晩、安倍首相の個人的なスキャンダルが、国会審議の場に出てくるんではないかと、私は思っています。

さてみなさん、安倍政権の支持率がずっと高いんですね、なかなか落ちません。森友学園の問題が出てきても、4ポイントか5ポイント下がりましたけれども、圧倒的に下がらなければ、われわれの勝利の見通しはなかなか立たないわけですけれども、じゃあなぜ安倍政権の支持率が高いのか？マスコミの評によれば、「やってる感」です。「やってる」、「やってる」という安倍首相のパフォーマンスが、新聞やテレビを通じて国民に流される。「おお、やってるじゃないか。」何をやっているか、は問わない。（笑）「やってるじゃないか。」みなさん、世界の首脳の中で、トランプ・アメリカ大統領に2回も会ったのは安倍さんだけです。ヨーロッパの首脳は、誰も、イギリスのメイさん以外会ってません。つまり、これが「やってる感」。国民の内閣評価につながっているんですけれども、先日の朝日新聞の世論調査によりますと、なぜ安倍政権を支持するか？「他より良さそうだから」というのが、支持の理由です。半数がそうなんですね、とても頼りない支持です。安倍政権を支持しない人の半分以上は、「安倍政権の政策が悪いから。」という正しい評価をして、「支持をしない」という意見を述べているわけです。これをよく見ると、つまりこれを考えると、はっきりしていることがあります。安倍政権に対して、国民の側に立った政策を明確に打ち出して、安倍政治に対する選択肢を選挙で作れば、必ず安倍政権を倒すことができる、ということではないかと思います。（拍手）市民連合は今、4野党に、4立憲野党に、共通政策をつくることを要請しています。本当は、市民と野党がともに闘う選挙戦ですから、4つの野党が集まって、部屋の中でどこかでこそこそと政策調整をするんではなくて、国民の前で、シンポジウムをやったり、公開討論会をやったり、いろんな市民の意見を聴いて政策を練り上げていく。そうしてそれが、市民の声として野党と共通に、共通政策がたてば、そしてそれに統一候補が付け加えられれば、衆議院選挙で、市民と野党の協同が成功する大きな展望が開かれてくると思います。しかしみなさん、参議院選挙32の一人区でした、これでも大変な苦労を、それぞれの地元で、みなさんがなさったことと思います。今度は295の小選挙区で、すべての小選挙区で統一候補を立てて、共通政策を打ち出して、そして勝利にわれわれが近づくためには、これからいろいろ苦労があり、いろんな工夫をしなければいけない、と思いますけれども、今日のみなさんのこの熱気の中で、最後まで、その闘いをやり遂げたい、市民連合もいっしょに闘うことをお約束して、ご挨拶といたします。ありがとうございました。（拍手）

７．各界からの連帯の挨拶

藤野正和さん（日教組都高教委員長）

みなさん、こんばんは。今ご紹介いただきました、私は東京都高等学校教職員組合、略して「都高教」という組織の執行委員長をしております藤野と申します。

私どもの組織は、都立高校の教職員で組織している組合であります。今日、何人かのOBの方た

ちもいらしゃっておりまして、私の様な者がこの場で発言するのは、なかなか、相応しいのかな、というふうに思うんですけれども、私ども実はですね、一昨日、70周年の、記念の祝賀会というものをやりました。1946年に私どもの組織が発足しまして、70年間、もうそろそろ71年になろうとしているわけですが、経ちまして、その間ですね、上部団体としては日教組に加盟をし、割れていないんです。今も、割れていません。ということでですね、私どもは選挙は非常に苦手にしていたんです。「野党勝利をめざす！」とか言いながら、それぞれ勝手にやってたんですね。率直に申し上げて。ですから、様々な状況の中でですね、野党共闘というのをやはり私たちは最も追求しなければならない組織だと思っています。（拍手）

先ほどちょっとお話が出ました長時間労働の問題等なんですが、実は先週、日教組が朝日新聞に全面広告を出しました。日教組が新聞に全面広告を出したのは、私の記憶でもほぼないんです。私どもの組織・都高教というのは、かつて全面広告を何回かうったことがございます。「主任制に反対」とか、「定年制に反対する」とかいろいろなことでうったことがございますが、日教組はないんです。なんでうったかというと、これ、長時間労働の問題です。さきほどありましたけれども、今教員の、中学校の教員で言いますと、高校もほぼ同じなんですが、80%、約80%が、週ですね、60時間以上の勤務をしている、週60時間以上です。ですから、20時間以上週に超勤をしている、ということなんですね。これが、80%以上がそういう勤務をしておりますから、中には80時間、90時間超勤している人間が、相当いるっていうことなんです。80時間でも過労死段階ですから、こういう実態がある。これをですね、例えば都の教育委員会とか学校長たちがどういうふうに扱っているかというとですね、まったくそういうものは見て見ぬふりをしております。私たちの超勤というのは、すべて自主的なサービス労働、というふうな形に取り扱われている。都教委の出したパンフレットにですね、「みなさん、先生になりましょう！」なんてパンフレットを出しているんですが、ある実際の教員です、名前を出しています、うちの組合員です。「朝、起きるのが6時。学校に行くのが7時。退校するのが8時には退校ー夜のですよー、夜の8時には退勤するように心がけています。寝るのは1時です。」というような、「私の一日」というのを出してですね、若い人たちに、大学生に「教員になりましょう！」って勧めているんです。（笑）こんなこと！、教育の世界はブラックです、というのは今はもう若い教職員たちの口癖です。しかし私たちはあきらめてはいけないと思うんですね。まぁ、日教組も全面広告を出しましたし、いろんなところでやっぱり教員の超勤の問題も、大きな問題だというふうに言われてきました。奨学金の問題、大学の奨学金の問題もですね、私どもが日教組の中でそのことを持ち出した時には、東京の高校の組合と神奈川の高校の組合しかこのことをほとんど知らなかった。他のところから問題、特に義務制（小中学校の義務教育）の組合の先生方はまったく知らなかったんですね。それが、ほんとに微々たるもので、またあれパフォーマンスですよね、安倍首相のパフォーマンスなんですが、「給付型奨学金をやります」というふうな形で、風穴があいてきたというふうに思っています。

私たちあきらめないで、様々な、この日本の民主主義と平和を守る闘い、そして教育を守っていく闘い、全力をあげて、取り組みを進めてまいりたいと思います。一時落ちていた組織も、だんだん加入も増えてきました。あきらめずに、がんばってまいります。市民のみなさんと手を合わせて、がんばっていきたいと思います。なんとしても、衆議院選で野党統一候補を実現して、すべての選挙区

で実現して、勝利を勝ち取りたいと思います。私たちも微力ですが、がんばって参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。（拍手）

喜入（きいれはじめ）肇さん（東京自治労連書記長）

みなさん、こんばんは。東京の市役所、区役所、都庁で働く仲間でつくっている東京自治労連です。私たちは、「住民生活の繁栄なくして、自治体労働者の幸福はない。」これをスローガンに、地域住民のみなさんの安全と安心、そして住民福祉の向上をめざして、そのための十分な人員の配置と安心できる賃金・労働条件を求めて闘っている組織です。

近年、医療や介護、あるいは保育園や図書館、役所の窓口、こういったことが、「公的サービスの産業化」という名のもとに、儲けの対象として、民営化・民間化される動きが加速しています。今、待機児童問題が非常に深刻で、私立保育園では、低賃金の保育士が生活のために、頻繁に入れ替わっています。公立をもっと増やすことが必要なんです。94 年の時には、全国で公立保育所が 13000 以上あって、公立と私立の比率は 6:4 でした。去年はついに逆転して 4:6 です。公立保育園が次々に民間委託された結果なんですね。もうひとつ、小田原市の生活保護行政にかかわるジャンパー問題。これも、住民生活を守る自治体の役割から見て、あってはならない問題です。国からの生活保護費の抑制のすごい圧力や、マスコミなどの生活保護バッシング。これによって、住民と自治体が、労働者が分断される。こんなことを一刻も早く、解決しなければならないと思っています。厚労省や権力者にものをきちんと言える労働組合が、小田原市になかったことも、根本的に大きな問題です。

しかしもっと問題なのは、安倍自公政権です。海外に生産拠点を移した大企業の儲けを保証する、そのための戦争、日本を戦争の危険に陥れる、そのための戦争法。そしてそれを実効あるものにするために、憲法に保障された諸権利と労働組合などを弾圧・抑圧する「テロ等組織犯罪準備罪」。国内に新たな産業づくりとしてロボットや IT 産業と同列に、社会保障だとか自治体の様々な先ほどの業務を、産業とするために企業に売り渡す、公的サービスの産業化。安倍自公政権の暴走によって、地域住民の安全も安心も、幸せに暮らす条件もズタズタになっているというのが今の現状ではないでしょうか。こんな政治を許さないためにも、私たちは自治体の労働組合として、組合員の思想信条を守り、同時に地域住民の、それから組合員の命と暮らしを守る、そして要求を実現する立場から、私たちを苦しめている安倍自公政権に対抗する政治勢力の結集が、なんとしても必要です。（拍手）私たちは、これを地域から、そして、私たち自身としても、野党の大同団結を、大切に育てていきたいと思いますし、そのために奮闘することを申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

武田隆雄さん（宗教者平和ネット幹事、日蓮宗日本山妙法寺僧侶）

みなさん、ありがとうございます。ありがとうございます。

宗教者は、現在もそうですが、歴史を振り返ると常に権力に迎合し、権力の側に立ってまいりました。再び「政府の行為によって」「戦争の惨禍が」繰り返されようとしております。再び「政府の行為によって」「戦争の惨禍が」繰り返されないことを、誓い合った日本です。しかし、今また再び、戦前の過ちを繰り返そうとしております。どうぞ私たち、宗教者・仏教

者・キリスト者・新宗教者を、みなさまの立憲主義・平和主義を取り戻す隊列に加えてください。（拍手）いつでもお声をかけてください。市民、野党、そして宗教者が一体となって平和憲法が守られていけるように、がんばりましょう。ありがとうございました。（拍手）

平田真吾さん（創価学会/創価大学有志）

信仰歴37年、創価学会有志の平田真吾と申します。どうぞよろしくお願いいたします（拍手）。創価学会初代会長 牧口常三郎は、のちの第二代会長 戸田城聖とともに、教育勅語に象徴される軍部政権に抵抗して、治安維持法・不敬罪で投獄され、初代は獄死しました。第三代 池田会長は、初代、二代の遺志を継ぎ、発展させ、平和と文化と教育の人間主義の連帯を大きく民衆に広めました。その活動は、昭和50年の反戦・反核一千万署名運動と、日本共産党との創共協定締結に結実し、ピークを迎えます。これらにより、時の政治権力と対峙した始祖 日蓮をはじめ、学会歴代会長の迫害の構図のままに、民衆の連帯を良しとしない会内外、国内外勢力の画策により、昭和54年4月に会長を失脚、予算権や人事権のない名誉職に祭り上げられ、政治的発言を抑えられたまま近年に至っております。昨今の公明党の狂いの元凶は、高齢の池田名誉会長を神格化して会員を動かす、学会執行部の保身にあります。一昨年の安保法制以来、池田大作の人間主義に準じて、公明党や学会専従職員を疑問視する会員が、澎湃と声を上げ始めております。（拍手）私たち創価学会有志は、本日お集りのみなさまと連帯し、現自公政権とその背後にうごめくものを打倒してまいる所存であります。（拍手）どうか、よろしくお願い申し上げます。（拍手）

＊ここで鈴木共同代表がカンパのお願いをした。集会チラシに８万円かかったが、このチラシが会の開催の告知に大きく貢献したこと、集会会場に掲示した見事なバナーには２万円かかった旨、報告があった。

８．東京各地の地域市民組織からの挨拶

１区　東京一区市民連合（仮称）準備会　　高橋さん

こんばんは。ご紹介いただきました、東京１区、仮称ですけれども、市民連合準備会、事務局を担当しております高橋と申します。よろしくお願いいたします。

これまで、戦争法廃止、立憲主義の回復を求め、千代田区で、港区で、そして新宿区でも多くの団体、個人の方々が集まって、文字通り創意あふれる多彩な運動にこれまで取り組んでまいりました。また、野党４党のみなさんとも、宣伝行動等々で御一緒に汗も流してまいりました。昨年の秋から東京１区レベルで、市民と野党の共闘、なんとしても作り出したい、こういった強い思いで集まり、運動の交流と学習会そして議論も重ねてまいりました。さる２月14日、大学教授や弁護士、婦人団体代表の方々が呼びかけ人になって、東京一区市民連合準備会を立ち上げました。３月１日には、あの神田神保町に立派な連絡事務所も開設、いよいよ本格的なスタートを切ったところであります。

東京１区にはご承知のように、大学や法律事務所、たくさんあります。また、文化人や著名な方々もたくさんいらっしゃいます。同時に都心３区、いずれも区民、有権者が増えつつある、これも一つの最近の特徴であります。私たちは市民連合準備会として、同じ思いを持つ多くの団体、個人の方々のご協力をいただきながら、しっかりとした市民連合を立ち上げていきたい、そして安保法制廃止、立憲主義回復を掲げる野党統一候補、国会議員、これを必ず東京第１区から実現する、そのた

めに、全都のみなさんとも連帯して奮闘していきたい、こういった決意を述べて、決意表明に変えたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

2 区　みんなで未来を選ぶ@文京台東中央（略称：ぶたちゅう）　永井さん

文京区在住の永井と申します。東京 2 区では、つなぐ会文京台東中央、台東総がかり行動実行委員会、中央区ママの会、各地区の九条の会の有志の方々が集まって、「みんなで未来を選ぶ@文京台東中央」、「みんなで未来を選ぶ@文京台東中央」を 1 月の 15 日にスタートさせました。文京区のぶ、台東区のた、中央区のちゅうで、ぶたちゅう。（笑）ぶたちゅうという略称ですので、あの一回聞いたら忘れないと思うので、ぜひみなさん、覚えて帰っていってください。ぶたちゅうです。

われわれの地域では、元々日頃の活動で区議さんとは結構親しくさせていただいてまして、そのおかげで候補者の方ともスムーズにつながりを持つことができました。ぶたちゅうとしては始まったばっかりですので、みんなで顔合わせをしながら、ゆっくりと地固めをしていっているところです。政治に関心のない方にいかにこぅ振り向いてもらえるか、そこが一番の課題となっています。ぜひみなさん、よろしくお願いいたします。

あと、区割りが変更される、この 2 区は結構影響が出る可能性がありまして、それで新宿区、荒川区、墨田区、江東区の方々ともつながっていきたいと思ってますので、ぜひそれらの土地の方々、ぶたちゅうに声をかけてください。よろしくお願いします。（拍手）

もう一点、月 1 回、このぶたちゅうは全大会が行われているんですけれども、今週の土曜日の夜、文京区の本駒込地域活動センターにて、第 3 回ぶたちゅう全体会が行われますので、そちらの方もぜひよろしくお願いいたします。以上です。（拍手）

4 区　戦争法廃止オール大田実行委員会　　福西さん

戦争法廃止オール大田実行委員会です。今日の資料の中で、一番地味なやつです。ただ表と裏に字がだらだらぁーっと書いてある。あんまりお金もないもんですから。そんな資料で、見てください。ここには、2015 年 7 月 26 日以来の、私たちの主だった行動が書かれてあります。それを見ていただければ、われわれがどんな存在なのか、おおよそわかっていただけると思いますんでね。

われわれは戦争法廃止、を掲げています。これがなんで選挙やるんだ？　単純です。国会では多数で勝手にやられているからです。いくら泣いたって、叫んだって、負け犬の遠吠えでしょ。勝たなきゃ何にもなんない。だから、そっから発想で、「野党は共闘」ということに共鳴したわけです。野党が共闘するには、今、小選挙区制で一人に絞らなきゃならない。それで大田では、都議会議員の補欠選挙がありました。これが、民進党 森愛さん、共産党 藤田さんという人が出ました。で、ギリギリで、決まりました。自公は、早々と決めてました。ギリギリです。でも、13 万票台の 4 千票差です。もっと早く決まっていりゃあ、勝ってたでしょう、と思ってるわけです。だから私はここで言いたいのは、「とにかく一本化を！、一本化！（笑）そして、早く早く早く！です。何をモタモタしてるんだ！」と。（拍手）ということです。早くやればこんな得なことはないんです！とにかく苛立ちます！ ね 、4 区の井戸さん、青山さん、そう思うよね!　候補者としては堪んないよね！ 早く決まってほしいよね!（拍手）

それから、最後にひとつだけ。選挙があって、われわれが推す候補が、政党が勝ったとします。で

も戦争法廃止という課題は、モーレツな against の風を受けるでしょう。この時に何が必要ですか？その時こそわれわれの行動が必要なんです。韓国であれだけ大勢の人間が集まりました。われわれも集めなきゃ、そのくらいの。とてもじゃないですけど、この戦争法廃止の、実現しませんよ！後ろにはアメリカがいるんですよ。そしていろんな利権が絡んだ保守政治家がいるわけです。われわれは、ぜひまとまって、政治の主人公でありたいと思ってます。よろしくお願いします。（拍手）

5 区/6 区　市民連合 めぐろ･せたがや　齋藤さん

市民連合 めぐろ･せたがやの共同代表をしております齋藤優子と申します。

市民連合 めぐろ･せたがやは、他のところよりもですね、大分早く、去年の 4 月 1 日に発足いたしまして、元々はせたれん（世田谷勝手連）という十年、長く市民活動をしてきたところと、始めたばかりの目黒の勝手連が集まりまして、参議院選が近かったんですけれども、そこは複数区ということで、衆議院選必ず来るから、ということで、もう 4 月に発足しまして、5 月の終わりぐらいの段階では、政策協定というものを結ぶことができまして、それからも数を重ねて、いろいろ政策をもっと練りに練って、いいものにしてまいりました。そして、4 月 1 日以降はですね、もう二周目の段階に入りまして、私たちめぐろ･せたがやはですね、ほんとにほんとに討論会といったですね、もっと深いところで候補の方たちと一緒にやっていくような活動に入っています。

これからもみなさんの先頭を切って、市民連合 めぐろ･せたがやはがんばっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

7 区　しぶなか市民連合　　五十嵐さん

渋谷区と中野区の東京 7 区はですね、昨年末のこのつなぐ会で出会ったメンバーを中心に、今年の初めからですね、毎週のように 2～3 時間にもおよぶ白熱した議論が行われて、先月の 25 日にお披露目の場であるキックオフ集会を開催することができました。（拍手）ありがとうございます。100 名収容の会場だったんですけれども、当日集まっていただいたのは、その倍の 205 名の方で（拍手）、ありがとうございます。その超満員の会場の様子は、こちらのつなぐ会のホームページに写真を載せていただいておりますので、ぜひご覧いただければと思います。また、当日は現職の議員の方や予定候補の方にも多数ご出席いただきまして、民進党の長妻昭さん、本日こちらにいらっしゃる共産党の谷川智行さんにすばらしいスピーチをしていただきました。党派は違えど、野党は安倍政権打倒の思いで一致しているんだな、ということが、あらためて確認できたようで、しぶなか市民連合はとても良いスタートがきれたんじゃないかなぁ、と思います。この勢いを維持したまま、きたる総選挙に向けて、与党候補に圧倒的な差をつけた勝利ができるよう、より多くの市民の方々へこの運動を広めていければと思います。ありがとうございます。（拍手）

8 区　自由と平和のために行動する議員と市民の会@杉並　　東本さん

みなさん、こんにちは。杉並、8 区の東本です。

杉並の市民団体は「自由と平和のために行動する議員と市民の会@杉並」、多分この 23 区の中で一番長い名前だと思うんですね。私たちは去年一昨年、安保法案が強行採決された時に、「どんなことをしても、政権を打倒したい」というような思いで、区議会議員 17 名というのは、立憲主義を取

り戻そうということでつながっていましたので、議員と市民、選挙は地域で行われます。地域の議員とともに市民団体を立ち上げました。でも、私たちは杉並区に点在している小さな市民団体とつながって、そしてしかも、個としてみんなつながろうということで、代表はありません。ただ私が、失うものは何もないものですから、（笑）なんていうのかなぁ、窓口になっている、という、そういうような団体です。そして私たちは、4回の円卓会議を行いました。3名の予定候補者がいます。3名の予定候補者は、さきほど紹介されました共産党、民進党、それと無所属の方がいらしたんですね。その中で一本化していただいて、なんといっても石原伸晃ですから、どんなことがあっても倒したい。というのは、7回連続選挙をして勝ってるんですね、石原伸晃。その中で2回しか5割を獲得してないんですね。だから、統一候補ができれば可能性が大なんです。だから、石原伸晃を倒すってことは全国的に大きな影響を与えると私たちは思っています。そして、4回の円卓会議で、それから公約、そして「私たちはどんな社会を作りたいのか？」ということを、候補者を交えて本当に話し合いを重ねてきました。そして一本化にむけて、石原伸晃を倒したい。よろしくお願いいたします。（拍手）

9区　練馬みんなで選挙（略称　ねりせん）　　柏木さん

みなさん、こんにちは。練馬みんなで選挙、略称 ねりせんの柏木と申します。一応共同代表ですが、特に何の力もなく、ただただ伝達役をやっております。

練馬はですね、区の中で、区内で8割ぐらいが9区でして、残りの地域的あるいは人口的2割くらいが、練馬の東側にあたりますけれども、10区、豊島区といっしょに10区を形成しています。今、ねりせんは、9区10区両方とも練馬区民の人が集っていますけれども、8:2ということで、9区を中心に活動をしています。ねりせんは、去年の春にですね、スタートをしまして、実は、みなさんよくご承知だと思いますけれども、10区補選が去年はありましたので、10区補選を豊島区の方々といっしょに、今そちらにいらっしゃいますが、鈴木庸介さんと岸さん、統一候補を立てて、一度、本当に、補選でしたけれども、選挙を体験いたしました。私にとっては、初めての国政選挙へのcommitで、大変いい勉強になりました。その経験を生かして、9区、3回の「囲む会」で、民進･木内さん、共産･原淳子さんを囲んでの会を重ねまして、その中で政策合意を固めてまいりました。今日、チラシを後ろに置かせていただいてますけれども、4月2日には「桜咲け！共同街宣」ということで、石神井公園の駅頭と、それから桜が満開の石神井公園で、お二人を中心とした練り歩きをやりたいと、いうふうに予定しております。もし、練馬近辺にお住まいの方がいらっしゃれば、チラシを持ってきておりますので、ぜひご参加いただければ、と思います。うちの、自民党現職は、あの菅原一秀です。ぜひ、倒したいと思っております。

もう何度もお話に出ていますけれども、安倍政権をなんとしても私たちのちからで、倒したい。自公政権を倒したい。そのために、9区もその一端を担うべく、区民の場をもっともっと広げて、がんばっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いしいたします。（拍手）

10区　TeNネットワーク　　森田さん

10区の共同代表をしています森田です。

昨年の10区の補選ではですね、東京都内のみんなのみなさまにほんとにご支援をいただき、ほんとにありがとうございました、重ねてほんとにお礼を申し上げます。（拍手）みなさんの力にそえな

くて、残念ながら、小池地盤の選挙区で負けてしまいましたけれども、市民と野党の、それこそ「つなぐ」、市民と野党の共闘の結びつきは、かつてないほど今、強まっております。私たちがやっぱり続けてきた、いろいろ苦労をしましたけれど、続けてきた共闘、市民と野党の共闘の運動はですね、こういう形で花開いたし、私たちがやってきた努力はほんとに無駄ではなかった、というふうに思っております。これから、あの、これからと言うより、私たちが作ってきたTeNネットワークというのは、「TeNネットワーク2016」というのを、昨年まで名前を出していたんですけど、それを新しく「TeNネットワーク」ということで、再建、再建じゃないですけれど、再び立ち上がりました。それで現在は、今、賛同者をどんどん広げよう、という形で地道な活動を進めております。同時に学習会をしておりまして、先日は共謀罪の学習会、それから、豊洲新市場の問題の学習会、4月には、いわゆる奨学金とブラックバイトの学習会、こういう形を各地域で行って、みんなの、この闘いを、市民と野党の闘いを広げていきたいな、というふうに思っておりますんで、ぜひみなさんといっしょに、これからもがんばりましょう。どうもありがとうございました。（拍手）

11区　チェンジ国政！板橋の会　　荒川さん

みなさん、こんばんは。板橋の荒川と申します。

11区は板橋が主戦場です。選挙区の変更がね、あるということで、若干の変化はあるかもしれませんけれども、基本的には変わらないと思います。私たち11区で闘う相手は、下村博文様ですね。（どよめき）非常に強い、さっき石原伸晃さんの話がありましたけれども、同じようにですね、小選挙区になってから一回も落ちたことないんですね。非常に強い相手、高くそびえている。これに対して、なんとしてもね、全力でぶち当たって倒したいというふうに考えまして、昨年の11月に「チェンジ国政！板橋の会」というのを立ち上げまして、こんにちまで運動を続けてきました。昨日からですね、みなさん、大相撲が始まったんですよね。相撲は横綱が一番強いんですが、おそらくですね、下村博文さんも、横綱級の強さだと思いますね。対するわれわれは、まぁ平幕か、十両かと、いうところですね。で、それに勝つのはですね、やっぱりみんなで力をあわせる、と野党がまとまる。安倍政治を終わらせたい、というですね、市民のみなさん方が集まって力を出しきると、いうことがどうしても必要になってくると思うんです。で、昨日、なんか、相撲ですと、横綱の白鵬が負けたんですね、ああいうことがあるんですね。ですからわれわれもですね、「お、白鵬負けたのか」ということで、そういう金星をあげるために、地域の隅々から頑張っていきたいと思います。よろしくお願いをいたします。（拍手）

12区　「みんなで選挙@東京12区」準備会　市原さん

みなさん、こんばんは。12区の市原と申します。連絡係をしております。「みんなで選挙@東京12区」という名前になりまして、まだ準備会です。3月の25日には、お手元の…、まだお手元に届いてないかもしれませんが、うしろにチラシを置いておりますので、ぜひお帰りにお持ち帰りいただきたいと思いますが、「3.25明日のTOKYOを考える」という集会を王子で行います。ぜひ、ご注目ください。

この選挙区は、実は、公明党の党の代表を引きずり落とした選挙区なんです。ご存じだったでしょう？今、参議院候補になりまして見事に一番最後に当選をした青木愛さん、今は自由党でいらっし

ゃいますが、前回生活の党で、その前は民主党で出ておられまして、最初に衆議院選挙にお出になった時に、見事に太田昭宏さんを引きずり落とした選挙区です。（拍手）はい、その後の選挙区の様子がですね、なかなかやっぱりスムーズに行かない部分もございまして、今は、足立区とご一緒になっております、12 区は、はい。北区は全域、足立区は北区に近いところがご一緒しております。それと、さきほどお話ありましたけれども、豊島区も一部ご一緒になるということで、私たちの中も「おおー？うう一ん？」みたいなところがちょっとあるんですけれども、今は共産党の現ので「比例」で当選をしておられます池内沙織さん、ただ一人が立憲野党の方では候補者として決まっておられます。それで、ぜひ、早く決めてもらいたい、ということと同時に、民進党がどうされるのか、ということも大変注目をしております。野党統一で闘いたい。そして、「遠くからも応援してるよ、見てるよ」という声を大変聴いております。みなさん、ありがとうございます。ちょっとお尻をたたかれて、焦ってる部分もありますけれども、じっくり腰を据えながら、必ず勝ち抜いてまいりたいと思います。応援する以上は勝ちたい！　このように願っております。どうぞ、お力をお貸しください。ありがとうございます。（拍手）

13 区　市民と政治をつなごう！市民連合足立　　吉田さん

足立の吉田と申します。今、紹介では 13 区と言っているんですが、私たちの会はですね、「足立」という範囲で、活動しようと思っています。先ほど 12 区の方からもちょっと説明ありましたけれど、足立区は一部がですね、12 区の方に属してます。ま、ただちょっと、先行に活動してた都合とかがありまして、足立区というくくりで私たちは活動しようと思っています。それでですね、まだ発足に至っていないんですが、一応名前が決まりました。「市民と政治をつなごう！市民連合足立」という名前なんですね。ちょっと似てますよね。こっちは「野党」なんですけど、だって野党の人、政権取ったら与党になっちゃうんですよね。ちゃんとそのことも考えてますので、（笑）私たちは与党になってからも、口出しします、はい。あそういうことですね。なるべく長く付き合っていただきたいな、ということで、「野党」というんじゃなくて、「市民と政治をつなごう」ということになりました。

それでですね、発足集会を、今のところ、4 月の 27 日に予定してますので、業務連絡で申し訳ないんですけど、祖父江さんと北条さん、よろしくお願いします。もしその日、4 月 27 日ですので、よろしくお願いします。みなさまもですね、大勢来て、足立の人たちにですね、市民連合をひろげていただけると、ありがたいなと思ってますので、協力お願いいたします。以上です。（拍手）

18 区　選挙で変えよう！　ふちゅう市民連合　　丹野さん

前川共同代表、今日都合が悪くなっちゃって、ピンチヒッターで、私、丹野です。よろしくお願いします。

今日、府中から 13 人が参加してます。私たちは昨年 6 月にキックオフ集会を開催し、正式にスタートしました。これまで様々な宣伝や取り組みを行ってきましたけれども、最近ではですね、市議会の各政党会派と懇談をしました。それから、直近では 3 月 5 日に市民の集いを行いまして、第一部は共謀罪の学習を行い、あすわか（明日の自由を守る若手弁護士の会）の弁護士さんのお話、それから第二部は、今日も見えてました、予定候補の菅直人衆議院議員と橋下繁樹武蔵野市議を囲んでの円卓会議を行いました。それで、お二人からですね、私たちの望む「8 項目」すべてに賛同をいただき

ました。「8 項目」というのは、これ全部今日、いま言えませんけど、例えば「日本国憲法を守ろう」とか「高江・辺野古新基地建設は止めさせる」それから「戦争法は廃止する」、「若者が安心して学べるような社会にする」そういう 8 項目です。

今後ともですね、ぜひ武蔵野・小金井と連携を深めて、野党統一でなんとしても自民党の土屋議員を落選させる。これは実現したいと思います。よろしくお願いします。

最後にひとつ。ちょっと関係ないんですけど、今度の森友学園問題、これはですね、安倍政権が、失脚するに値する大問題だと思います。これは、徹底的に追及していかなければいけない。それに、日本の民主主義がかかっている問題だと思いますので、できたら選挙前に、退陣させる。それが一番いいかな、と思います。よろしくお願いします。（拍手）

18 区　みんなで選挙　東京 18 区（略称　ミナセン 18 区）　　池田さん

こんにちは、18 区、東京ミナセンの池田と申します。よろしくお願いいたします。18 区の世話人をさせていただいておりまして、あと、つなぐ会の世話人も役不足ながら、いろいろはたらかせていただいております。今日は市民のみなさま、議員のみなさま、政党のみなさまがこんなにも集まっていただいて、本当に、私ども世話人一同感激しております。Twitter の方を見ていただいた方もいらっしゃると思うんですが、「戦後初めて、衆議院の候補の方が一同に会した。」と、私たちは思っております。ちょっと、歴史的にはちょっと調べないといけないとは思っておりますけれども、そういうところでは、非常に、誇り高く思っておりますし、みなさんが来ていただいたのは歴史の 1 ページだと、私どもは考えております。

簡単に、私どもの紹介です。東京ミナセン、「ミナセン」は名前は存じている方もいらっしゃると思うんですが、勝手連ってございます。18 区に限りませんで、古くは衆議院選挙、菅直人さんの、前回の菅直人さんの選挙、メンバーはいろんな選挙に関わっておりまして、菅直人さん、それから五十嵐仁さん、さきほどいらした小川敏夫さん、鈴木庸介さん、いろんな選挙の方に、お手伝いにうかがわせていただいております。みんな思うところは同じで、「リベラル」の、「私たちの生活を守りたい」、「安倍政権を倒したい」、「平和な日本を取り戻したい」、そういう気持ちで動いております。先ほど、市民連合の先生からお話をいただきました。「安倍さんがやってる」感ですね。私たちも、市民も、こういう会を開いて、どんどん「やってる感」を出して、日本中に広めていかなければ、安倍さんの「やってる感」には勝てないと思いますので、これが第一歩で、どんどん広げていきたい。それから、みなさん、いろんな組合や宗教界の方々が来てくださっておりますので、これもうどんどん、いろんな会を広げて、縦横無尽に広げていきたいと思います。私たちを分断させようとする勢力に負けずに、これを機会にみなさまと手をつなげてがんばっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。（拍手）

18 区　選挙で変えよう！ こがねい市民連合　　加藤さん

18 区、たくさんあってすいません。連携してやっていきます。小金井市から来ました、選挙で変えよう！ こがねい市民連合共同代表の加藤友志です。

さきほど、教育現場とか、奨学金の話がありましたが、ぼくも東京学芸大学の学生です。こがねい市民連合は昨年 4 月から活動を始めて、5 月 円卓会議、11 月に北海道から池田真紀さんを招いての学習会などを、日頃からやってきました。民進党の菅直人さん、共産党の橋本繁樹さんには「7 つ

の望むこと」を府中のように作っていまして、賛同をもらっています。

小金井市では市議会で意見書の採択の活動が活発に行われていて、つい先週、「共謀罪法案の国会提出の中止を求める意見書」が採択されました。（拍手）おそらく地方議会では初めてなんではないでしょうか。あわせて、「沖縄高江の自然と暮らしを守れ！」というもの、また「横田基地へのオスプレイ配備の撤回」そういった意見書も可決されています。（拍手）国政の問題について積極的に触れたがらない地方議員とか、いると思うんですけれども、私たちの暮らしと、自由と民主主義のために、声をあげることが大切だと思います。

小金井では、今月、市議選の真っただ中でして、ぼくしか来てないんですけれども、市民派を維持、前進させていくこと。そして都議選も一市で一人区です。ここでなんとかして、統一候補を作っていくんだ、そういったことをがんばっています。18 区において、府中の方、武蔵野の方、とみなさんと一緒に連携してこの流れを生かしていきたいです。そして、統一して終わりじゃありません。当選させて、その後も支えていくために、市民からも積極的に選挙に関わっていくこと、それから、政党の方々には、市民が参加しやすい環境や雰囲気を作っていくことを、ぜひお願いします。ベテランのみなさんからぼくたちもたくさんを学びながら、いっしょにやりたいと思いますので、ともにがんばっていきましょう。（拍手）

20 区　（仮称）選挙で変えよう市民連合 20 区市民の会　　阿部さん

清瀬市から来ました、阿部と申します。私は共同代表でもなんでもなく、「今日、参加できるんだったら、オマエ、報告してこい」ということで、挨拶させていただきます。

この紙にも書いてありますように、20 区というのは、東村山市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市という 5 つの市でなりたっている、結構、非常に広い、地域でなりたっております。それで、仮称ですけども、「選挙で変えよう 20 区市民の会」、これの最初の集まりは、昨年の 12 月にありまして、それを皮切りに活動、横のつながりはきちんととっていこうと、いうことで、活動が始まりました。集まってみますと、結構地域差がありまして、結構大きなグループとして活動している地域もあれば、小さな地域もあります。3 回目の集会が、今月 25 日ですか、これが 3 回目になります。その間にですね、各政党に申し入れ書、20 区の各政党に出しました。これは、まだ決まっているわけでも何でもないんですけども、次のアクションとしては、やっぱり、各野党に集まっていただきましてシンポジウムみたいなのをやりたいな、という気持ちはあるんですけれども、申し入れをしながら、野党のみなさんと話した感触でですね、ちょっと難色を示す、とにかくひとつの土俵にみんな野党が集まる、ということに難色を示す党がある、名前を言っちゃていいのかな、（笑）、ここまでいったら言わざるをえない、民進党がねぇ、みなさんといっしょの土俵で、単独にお話するのはいいけども、みなさんといっしょに、みなさんといっしょの土俵でお話するのは、ちょっと問題がある、ということで。ところが、今日みなさんのお話を聴いてると、野党すべて集まっていただいて、互いにこぅ活発に論議してる、というのもあるんで、なんとかそれをベースに打開していきたいな、と思っております。すいません、ちょっと。（拍手）

21 区　UNITE！ ひの　　山口さん

21 区からまいりました、「UNITE！ ひの」というグループで活動しています山口といいます。

21 区というのは、日野市と立川市と昭島市の 3 つの市があります。みなさん、ご存知ですかね？で、その日野で「UNITE！ ひの」というグループと、あとは日野市民連合、正式名称は「アベ政治を許さない日野市民連合」というグループがあって、私、両方入って活動しているんですけど、よく、「あの、なんで二つあるの？」という質問されるんですが、これ、なんか説明するの結構むずかしいというか、特に大きい理由はなくて、両方とも大体同じようなことやっているんですけど、UNITE！ ひののほうが、若い。（笑）若い、というぐらいですかね。それでともかくいろんな活動をしている。というところです。で、立川と昭島の方でも、今、両方とも、名前は置いといて、市民連合とか組織を作ろうという準備を進めていると、いうふうに聞いています。最終的に形はどうなるかというのは、わからないんですけれども、日野と立川と昭島で一緒になって、市民のちからを集めていければ、と思っています。その上で、予定候補だとか、あと 21 区は民進党の現職の議員がいますので、そういった方と、いっぱい会って、顔を覚えてもらって、怪しい者じゃないですよ、と話をちゃんと聴いてもらえる関係をつくる、というところを目標にやっていこうと思ってます。

今日、これだけ人が集まっているところで話すって、あんまり思っていなかったので、びっくりしたんですけど、来ていろんな話を聴いてとても勉強になりました。これを、21 区に持ち帰って、また、刺激を受けて、活動に活かしてどんどん発展していけばいい、と思っています。今後ともよろしくお願いします。（拍手）

23 区　（仮称）市民連合東京 23　　永井さん、藤井さん

23 区は、多摩市と町田市です。今日来てらっしゃる方で多摩市・町田市の、ちょっと前、みんな、出てきてください。みんな出てきてください。いっしょに、共同でやってるっていうとこで、出てきてください。

私は多摩市の方の永井と申しますが、多摩市では、「多摩市民連合」というところを中心にして、やっています。ほかの市民運動といっしょにやっています。2014 年に「戦争はいらない 多摩市民連合」というのを作りました。おそらく一番最初じゃないかと思うんです。それで、町田市の人と一緒にやっていこうと思って、今やっています。はい、町田市の方で。

世話人の一人として活動しております藤井と申します。みなさんもご承知で、今さらもう言う必要ないと思うけれども、森友学園の特異な愛国心教育。こういった、変な、昔のですね、この陶酔してやっている安倍政権、こういった、ほんとにですね、まぁ「やってる」と言われたんじゃ、たまらねえとぼくは思ってますけれども。ということで、まぁ、これからはですね、この政治を止めさせるために、一生懸命活動して、と思う。それから、政党の方、議員の方も今日たくさんお見えになっておりますけれども、われわれは、ですね、これからやろうとすることは、要するに、われわれ国民、主権在民のわれわれがですね、どういうことを考えているか。きちっとね、オープンにわれわれしていきたいと思いますけれども、議員の、立候補される方はですね、その辺の思いをきちっと捉えていただいて、そして来るべき政治にそれを反映してほしい、というふうに考えております。よろしくお願いします。（拍手）

25 区　　東京 25 区野党共闘 あにすんだ勝手連　　京野さん

みなさん、こんばんは。西多摩の羽村市から来ました京野と申します。

ちょっと、飛び入りみたいな形になってしまったですが、昨年の5月ぐらいにですね、会の名前はですね、「東京25区野党共闘 あにすんだ勝手連」と、申します。「あにすんだ！　あにすんだ！」という西多摩の方言らしいんですが、それを会の名前にしております。昨年の5月にですね、このままでは、憲法改正までいっちゃうな、それは、何としても困る。そういうことで、私、世話人のひとりで勝手にやっているんですが。25区はですね、青梅、福生、羽村市、あきる野市、あと西多摩郡の瑞穂町、日の出町、奥多摩町、あと檜原村ですか。ここの地区はですね、かって民主党が政権をとりました。その時でもですね、自民党が微動だにしなかった、そうした選挙区のひとつなんです。東北なんかでも、ずいぶん保守が強かったところでも、民主党が勝った、そういったことがありましたが、そんなことはまったくない。あちこち歩いてもですね、自民党のポスターしか貼ってない、まぁ、そういったところです。ですけども、そういったところからでも、なんとか、保守の連中を倒さない限り、彼らに勝手にされてる。もう、今、まさに、昔から自民党は強いんですが、勝手にやってます。西多摩もいろんな人たちが、それぞれ活動をやっておりますんで、それらをつなげてですね、なんとか勝ちたいんですけど、それはなかなかむずかしいかもしれませんが、（笑）少しでも近づければ、という思いでやっております。よろしくお願いします。（拍手）

９．千葉、神奈川、埼玉からの挨拶と報告

かながわ市民連絡会　藤宮礼子さん

かながわ市民連絡会事務局の藤宮と申します。

神奈川は、昨年の参議院選の時から盛り上がっておりまして、衆参同日選挙という可能性があった頃に、「みんなで選挙 神奈川」、通称ミナカナを中心に、全地域に、5月の段階でですね、市民勝手連のネットワークはできていました。同日選挙がなくなって、参議院選挙が終わった後に、ちょっと市民全体に燃え尽き症候群のようなもの、そういうものが拡がりまして、衆議院選に向けて動き出さなきゃと思いつつ、個別のissueを抱えて動いている方も多かったので、ちょっと求心力が弱くなってしまったというところがあったんですけれども、「年内解散」というそのころ声がありましたので、10月末から11月末にかけまして「@湘南市民連絡会」という地域勝手連を中心に、何度か話し合いの場を持ち、11月5日には、ミナカナの世話人の方たちにも来ていただいて、意見交換や助言などをしていただきました。そういうふうに話し合いを積み重ねてきました。11月23日は。「カレ～なる選挙の話」をしよう、というイベントをやりまして、親睦もかねて、みんなでカレーを作って、（笑）食べて、片づけるというイベントをしながら選挙の話をする、という1日がかりでやったり、そんなこともやったんですね。その時にはですね、全県18選挙区のうち15選挙区からの参加者がありました。その時に、各地域での活動の様子や政党の情勢などの情報交換ができ、それが非常に有意義だったということで、今の全体交流会の形が出来上がりました。12月の交流会では民進党の真山勇一参議院議員、共産党の畑野君枝衆議院議員にもご参加いただいて、そこでかながわ市民連絡会の立ち上げとなりました。今年になってから、2回の全体会と3回の拡大事務局会議を開催しております。個人参加のネットワーク型なので、今の事務局はこれを運営するための事務サポートという役割になっております。今週土曜日の全体会では、18選挙区が一応そろう予定になってます。2月の全体会では12団体で候補予定者と直接話し合いがされているという報告もあり、全体の選挙区

で統一候補という動きもできてきておりまして、これから今、かながわ市民連絡会というネットワークにも様々な期待を寄せられていることを感じているので、これにどう対応していくかが、今の課題です。

神奈川県は、意外に保守県でありまして、菅、甘利、小泉、河野という自民党の大物議員もおり、この支持層を切り崩していくために、「神奈川から変えよう！」を合言葉に、がんばっています。どうもありがとうございました。（拍手）

埼玉地域連絡会　　横井泰夫さん

埼玉の地域連絡会の横井です。

みなさんに、埼玉のことを話す前に、南スーダンからなぜ急に撤退したか？　疑問に思いませんか？　私の、高校時代のサッカーの後輩が九条の会に入ってくれてるんですが、陸補、昔で言う「中将」なんですけど、彼に今日電話したんです。「ヨコイさんに初めて話すけど、日本の最高機密は誰が握っているか、知りませんか？」と言われたから、「当然、内閣官房だろう？」、「冗談じゃない。自衛隊のトップ、幕僚のキャリア官僚、それと警視庁の公安のキャリア官僚、この両方で最高機密をすり合わせて、内閣幹部を動かしている。今回、安倍・稲田はですね、せっかく「駆けつけ警護」で、大変な思いをして安保法案を通したから、「いやだ」と言ったんだけど、「オマエら何言ってんだ」と。「このままいくと、間違いなく南スーダンで死傷がでる。それで、一気にオマエらの内閣吹っ飛ぶぞ！」ということでですね、説き伏せられて（笑）、そこで嫌々撤退だから、非常に歯切れ悪い。それだけです。（笑）

埼玉はですね、去年の11月に、横のつながりで5～6人でちょっと秘密で話し合いまして、「なにしろ市民がつくるんだから、民主的にやるんだから、まず各区で運動を起こそうじゃないか」ということで、2月末まで15区、そのうち8区が実は前回の選挙で野党が上回ってるんです。だから、市民と野党が統一すると、15区全部勝てる可能性がある。（拍手）そのためにはね、「連絡会でトップダウン」は、もう会社で飽きたんだから（笑）、下から持ち上げていこう、というんで、2月の末で15区全部連絡会ができました。（拍手）4月の20日にですね、正式にわれわれは地域連絡会ですから、連絡係なので、上の組織ではない、4月20日に第2回目の会合をやります。時間がないので一言で言いますが、6月4日、「オール埼玉」は15,000人の集会を持ちます。（拍手）過去の歴史を調べるとですね、私が高校1年の時が60年安保だから、あの時はやっぱ埼玉から2～3万人行ったと思うんですが、単独で最高は去年が9,000名だったんです。今日話し合ったら、最終的な実行委員会は少なくとも500名にならないか、成功しないかん。それで大きく、盛り上げてですね、やっていこうと。埼玉、最後に、非常にやり良いのは、オール埼玉の事務局長が、電機連合、電機の連合の事務局長なんです。それで、中野さんを呼んで、うちの会は400名で結成集会をやった時の中野さんの話が非常にいいんで、２つ言います。

これから運動をやる時において一番大事なのはお互いにrespectすることだ、と。あなた方夫婦はrespectしあってないじゃないですか。（笑）まず、そこからやってください。これで、人と人、個人個人、政党でやってください、ということ。それを重要視するということと、それともう一つ、4区でやっていることは、今、賛同者を増やしています。今日400名になりました。これを1000名にして、賛同すると同時に票を増やしてもらう。それと少なくとも1000円カンパしてもらうというこ

とになると、1000 人の運動員でですね、100 万の金ができるわけです。これをどうにか 4 月中に達成して、少なくても 4 区はですね、自公政権の候補者をねじ伏せるということが私の夢であり、現実にしたいと思います。長くなりました。以上です。（拍手）

千葉県市民連合　　柴田英二さん

千葉県市民連合の事務局をしております、柴田と申します。首都圏の中では一番遅れているかなぁという状況でしたが、今、急速に変化をしてきている報告をして、みなさんへの連帯のご挨拶にしたいと思います。

まず、なぜ千葉県市民連合かと申しますと、私も東京とか神奈川、埼玉を見ていまして、小選挙区からやっぱりこういう市民連合というのは作られていくんだなぁ、と思って、期待をしておりました。しかし、なかなか進まない地域でですね、そうしたらいろんな議論をしたら、「いや、県で見本を見せてくれ」と、こういう話になりました。で、あのやっぱり、東京のみなさんには考えられないかもしれませんが、千葉県というのは、美濃部革新都政などがあった時に、社共の本格的な統一をした自治体が、ひとつもできなかった県なんです。ですから、政党はもう付き合い方をお互い知らない。市民同士も、よく顔が知らない。こういう状況でした。そういうことで、いよいよ県段階から作ろう、というふうになりまして、昨年クリスマスぐらいからスタートして 1 ヶ月で、1 月 29 日に、このぐらい集まって、県市民連合を作りまして、それで今度終わっただけじゃあもうだめだ、ということで、13 区全部、顔合わせ会、という、お互い顔を確かめて、次集まるのはいつにしようかと打合せをいたしました。そしたら、その顔合わせ以来ですね、怒涛のように今、発足の流れが出てきておりまして、13 区の選挙区のうち、11 で発足集会が今決まってきております。（拍手）あと 2 つ。で、やっと一都三県の仲間、に入れるかなと、こういう状況に来ています。それは、やっぱ一つ思いますのは、参議院選挙でも、埼玉や神奈川とも違って、悶々とバラバラに闘いを進めて（笑）おりました。そういうことがやっぱり、堰を切ったように今、市民が手をつなごうというこの願いと運動がですね、今ひとつになってきている、というのが私たちの今、確信です。

それからもうひとつですが、今、知事選が始まっています。これも、今までにない知事選で、市民が共闘をして、いっしょに候補者を探し政策協定をして、それを政党が応援する、5 つの政党が応援するというとこまで来まして、まだ自主投票だという民進党、社民党からも「街頭で応援をする」、こういう人が生まれています。新潟ショックから千葉ショックということで、今（拍手）闘いを進めようと思っています。後ろにチラシなど置いてありますので、ぜひお持ち帰りください。そして、やっぱりこのですね、知事選がきっと、私たちは勝つつもりでやっておりますが、総選挙に向かって本当に大きな財産になると思います。選挙も今、手探りで大変なんです。やり方が全然違うんですから。ほんとに、respect 尊重、ほめるとか、そういうふうにしないとものは進まない。（笑）こういう体験を今、日々しているところであります。ぜひ、そういう意味では選挙もがんばり、そして、東京はですね、千葉から通勤者がいっぱいいるんです。みなさんのような年金者は千葉でも一生懸命がんばりますが、東京に通っている現役労働者に大きな影響を与えていただけるような、東京での市民と野党の共同の発展をお願いをいたしまして、ご報告としたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

＊ここで、司会の松井さんから、カンパが 136,146 円集まったこと、集会の参加者の人数は第二会場（参議院議員会館）をあわせて 420 名であった、との報告があった。

10. 閉会

小林哲雄さん（市民と野党をつなぐ会@東京 事務局長）

どうも、大変長時間お疲れ様でございました。各地域のみなさん、そして候補者のみなさん、こうやって一堂に会するのは今回が初めてだと思います。今日、第一歩にですね、市民は市民で、そして、政党さんは政党さんで、大いに議論を深めて、そして野党統一、野党共闘の実を上げていきたい、そのための第一歩となることを祈念しております。

さて、今後の予定ですが、つなぐ会としましては、第 6 回経験交流会を 4 月 16 日に中野産業振興センターで持ちます。これは、今まですでに 5 回続けておりますけれども、各地の経験を交流するとともに、いろいろな政治的な課題や、情勢について議論を行います。そして、そうした報告や議論の後は、各地域ごとにテーブルを分けて、みなさんで顔をあわせて、初めて会う方もいらっしゃいます、そしてこうした経験交流会が基になって、各地域で市民連合的な、あるいは選挙に向けての市民の動きが今まさに動きつつございます。どうかみなさん、この第 6 回経験交流会にもお出で下さい。

そしてもうひとつ。先週、国会前ではいろんな森友に関する催しが行われました。総がかり行動実行委員会もやりました。そして、森友 10 万人デモ、これは 1 週間ぶっ続けでやっております。今後、私たちの関わっております団体も 3 月 14 日には緊急抗議集会、シンポジウムを行うというので、うしろにチラシもございます。こうした喫緊の課題、森友問題、こういったものもですね、きちんと取り組みながら、考えながら、明日の日本を作っていくために、地域で、そして各年代、今日は若い人からご年配の方まで、年金生活者の方まで、各種各層の方が発言されました。そうした、多様な市民の声を、ぜひ政党さんに活かしていただきたい。私たち市民の、ひとつの財産は多様性だと思います。多様性、いろんな意見を持った人がいる、いろんな立場の方がいる。「それはバラバラだ、烏合の衆だ」そういうことではありません。それこそが私たち市民のちからを生み出すんだ、と思います。政党さんもそうです。自民党、公明党は「いろんな、政策の違う、理念の違う政党が集まるのは、野合だ！」言ってのけます。そうではありません。共通の課題について、キチンと議論をしていく。それこそが民主主義だと思います。みなさん、今日を第一歩に、日本の民主主義を新しく作っていきましょう。どうもありがとうございました。（拍手）

以上をもって閉会した。

記：高橋 知文（市民連合 めぐろ･せたがや）

衆議院東京小選挙区の予定候補者・
市民と野党の共同を進めている市民組織の一覧表

2017/3/13大集会
出席 42

選挙区	地域	市民と野党の共同を進めている市民組織	予定候補者	党	出欠	報告者
１区	千代田区、港区、新宿区	東京一区市民連合（仮称）準備会	海江田万里	民	欠	高橋
			冨田直樹	共	○	
			野沢哲夫	自由	○	
２区	中央区、文京区、台東区	みんなで未来を選ぶ@文京台東中央	松尾明弘	民	○	永井
		（略称：ぶたちゅう）	細野真理	共	○	
３区	品川区、大田区の一部、島嶼部		松原仁	民	欠	
			香西克介	共	○	
４区	大田区	戦争法廃止オール大田実行委員会	井戸正枝	民	○	福西
	(第3区に属しない区域)		青山昂平	共	○	
５区	目黒区、世田谷区の一部	市民連合 めぐろ･せたがや	手塚仁雄	民	○	齋藤
		（略称：めぐせた）	宮本栄	共	○	
６区	世田谷区		落合貴之	民	○	
	(第5区に属しない区域)		岸武志	共	○	
７区	渋谷区、中野区	選挙で変える！渋谷・中野市民連合	長妻昭	民	○	五十嵐
		(略称：しぶなか市民連合)	谷川智行	共	○	
８区	杉並区	自由と平和のために行動する議員と市民の会@杉並	吉田晴美	民	○	東本
			長内史子	共	○	
			円より子	無	欠	
９区	練馬区	練馬・みんなで選挙（略称：ねりせん）	木内孝胤	民	○	柏木
	(第10区に属しない区域)		原純子	共	○	
１０区	豊島区、練馬区の一部	TeNネットワーク	鈴木庸介	民	○	森田
			岸良信	共	○	
１１区	板橋区	チェンジ国政！板橋の会	前田順一郎	民	○	荒川
			小堤東	共	○	
１２区	北区、足立区の一部	みんなで選挙@東京１２区準備会	池内沙織	共	○	市原
１３区	足立区	市民と政治をつなごう！市民連合足立	北条智彦	民	○	吉田
	(第12区に属しない区域)	(準備会)	祖父江元希	共	○	
１４区	墨田区、荒川区		清水啓史	民	欠	
			阿藤和之	共	○	
１５区	江東区		柿沢未途	民	○	
			吉田年男	共	欠	
１６区	江戸川区		初鹿明博	民	○	
	(第17区に属しない区域)					
１７区	葛飾区、江戸川区の一部		伊藤正樹	民	○	
			新井杉生	共	欠	
１８区	武蔵野市、府中市、小金井市	選挙で変えよう！こがねい市民連合	菅直人	民	○	加藤
		選挙で変えよう！ふちゅう市民連合	橋本繁樹	共	○	丹野
		みんなで選挙 東京18区 （ミナセン18区）				池田
１９区	小平市、国分寺市、国立市、西東京市	安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合	末松義規	民	○	なし
		@国分寺（略称：市民連合@国分寺）	渡辺浩一郎	自由	○	
		*3/13報告なし	杉下茂雄	共	○	
２０区	東村山市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市	（仮称）選挙で変えよう20区市民の会	竹田光明	民	欠	阿部
			宮本徹	共	○	
２１区	立川市、昭島市、日野市	アベ政治を許さない日野市民連合 *3/13報告なし	長島昭久	民	欠	
		UNITE！ひの	佐藤文子	共	○	山口
２２区	三鷹市、調布市、狛江市、稲城市		山花郁夫	民	欠	
			阿部真	共	○	
２３区	町田市、多摩市	（仮称）市民連合東京23	櫛渕万里	民	○	永井
			松村亮佑	共	○	藤井
２４区	八王子市		高橋斉久	民	○	
			飯田美弥子	共	○	
２５区	青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、西多摩郡	東京25区野党共闘　あにすんだ勝手連	山下容子	民	○	京野
			井上宣	共	○	
		18地区　20組織				19人